

還暦過ぎでの挑戦

私は還暦を過ぎてから技術士に挑戦しました。SUKIYAKI塾のサイトだけが頼りでした。同じ年配の方々の参考になればと思い私なりの筆記試験対策の経験を整理しました。

1次試験（H19年度）

私にとっては、2次試験の勉強より1次試験の勉強が辛く、合格した感激も1次試験の方が大きかったように思えます。それほど「忘却の彼方」にある基礎科目で点を取ることが難しく思えました。このサイトに出会っていなければ、受験をしようという覚悟さえも出来なかったと思います。

「勉強の期間」

6月から9月の4ヶ月間は早朝に短時間でも毎日机に向かうことを習慣とした。8月から9月は土曜・日曜の家庭サービスなしとした（退職してまでも仕事寡婦の妻に感謝）。

「勉強内容」

- ・ 対策ノートや演習問題をプリントして覚えるまで何度も繰り返す。
- ・ 基礎問題は暗記が辛く、材料・金属・バイオの問題を放棄した。残りの12問中の5～6問を計算問題で稼ぐようにした。そのため、システムの信頼性評価、ビット計算、待ち行列、標本数、最適化（線形計画）、集合演算・論理演算、フックの法則、熱伝導、運動法則等の練習問題を繰り返し、解き方を復習した。計算問題は一度納得して解けば忘れない、遠回りのようで年寄りには確実であった。
- ・ 専門も練習問題を繰り返しやり、問題に慣れる、これにつきた。
- ・ わからない語句が出てくれば、その都度に建設用語辞典などで確かめた。
- ・ 出題数の多い河川・砂防、構造・コンクリート、土質の3分野うち土質については教科書で基礎的な勉強をした（これは効果があり土質で5問を稼げた）。
- ・ 適性も練習問題になれることであった。

試験前日は、睡眠を十分に取った。試験当日は、暑さ対策と早めに試験場に着くことに気をつけた。会場に行く地下鉄の中から周りは息子の年齢に見え少し恥ずかしかったが、試験が始まるとそんなことは関係なくなった。

「試験結果」

適正 13 / 15 基礎 8 / 15 専門 42 / 50

2次試験（H20年度）

（1）受験準備の内容とスケジュール

1月から3月

- ・技術士論文の書き方（骨子法）
- ・建設白書
- ・体験論文のテーマと骨子・2題

4月から7月

- ・業務経歴
- ・一般問題の論文骨子の準備
- ・専門問題の論文骨子の準備

（2）骨子法の効果

骨子法を身につけたお陰で、関係資料から論文を作成することが格段に進みました。目から鱗が落ちたというか、自分がステップアップしたということが実感されました。初めて地球温暖化対策の骨子を整理したときは約1ヶ月程度かかりましたが、4問目ぐらいからは資料整理を含め1週間以内に作成できるようになりました。

現状と課題、解決策は関係資料に書かれているので、問題点の抽出をどうするかが論文骨子作成のポイントでした。これを自分で考え出すことが試されていたと思います。

（3）必須問題（建設一般）

建設白書の他に社会資本整備審議会資料を参考としました。

地球温暖化対策の論文骨子の他に、効果的効率的な社会資本整備、社会資本整備の説明責任、アセットマネジメントについての論文骨子を準備しました。結果は、アセットマネジメントが出題され、APECさんのコメントが役立ちました。

（4）専門問題（都市及び地方計画）

- ・建設白書、国土交通省のHPから都市計画課や市街地整備課の資料、社会資本整備審議会資料を参考とする
- ・過去の出題傾向、国・担当課の年度当初の予算方針、法律改正の動向等から複数の予想問題の論文骨子を準備

その結果、市街地整備の問題は準備した論文骨子を再編集することで対応できました。また集約型都市構造の問題については、論文骨子を準備していませんでしたが関係資料を読んでいたのので何とか合格しました。

論文骨子を準備した問題が出なくても最後まで諦めず、自分なりに蓄積した知識で骨子法にそってまとめれば合格点が取れるものだと思います。普段の業務を使い捨てにしないとのAPECさんのコメントは至言です。